

1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

【評価実施概要】

事業所番号	4090700040		
法人名	北九州ヘルスケアサービス株式会社		
事業所名	グループホーム 黒崎		
所在地 (電話番号)	福岡県北九州市八幡西区東王子町7番8号 (電話) 093-621-2612		
評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 評価事業部		
所在地	福岡県北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成22年2月25日	評価確定日	平成22年5月7日

【情報提供票より】(平成22年2月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成19年4月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤13人, 非常勤3人, 常勤換算13.2人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り 2階建ての2階部分		
------	-------------------	--	--

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000 円	その他の経費(月額)	水・光熱費 (20,000円)	
敷金	有 (200,000円)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (300,000円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	400 円	昼食	500 円
	夕食	600 円	おやつ	100 円
	または1日当たり		1,600 円	

(4) 利用者の概要 (2月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名
要介護1	4 名	要介護2	4 名		
要介護3	5 名	要介護4	4 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85.9 歳	最低	69 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	益本医院・八幡東病院・三菱化学病院・かい歯科医院・青山中央外科病院
---------	-----------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

北九州病院グループが運営する「グループホーム黒崎」は、公共機関(区役所・警察署・郵便局等)に囲まれた閑静な住宅地の中に位置している。近隣には長崎街道の面影を残す風景や緑豊かな遊歩道があり、恵まれた周辺環境を有している。このホームでは介護の経験豊かな管理者の思いを背景に、「介護する・される」「してあげる・してもらう」など、一方的な関係ではなく、人と人として向き合える関係を作りたいと、共同生活を支援している。また昨年、看取りを経験したことにより、認知症介護に対する職員の気持ちも、より深いものになっていることを管理者は感じており、貴重な経験となっている。母体法人の変更があり、新規開設して4年目を迎える中で、課題として抱えていることも多く、地域密着型サービスとしての果たすべき役割を明確に捉え、入居者本位の視点から運営体制を整備していくことが求められる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	<p>昨年は 理念 人権教育 職員を育てる取り組み 思いや意向の把握 チームで作る利用者本位の介護計画の5項目が提案されている。研修制度は法人全体での年間計画が作成され、充実してきている。継続して取り組む課題も多い。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回の自己評価作成は管理者により行われており、職員全員の参加により、サービスの向上につなげて行くことが求められる。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>運営推進会議は2ヶ月に1回、土曜日に行われている。日常生活の報告や行事予定・ボランティア活用・市民センターとの交流などについて意見交換されている。評価についても議題として取り上げている。地域との交流は、会議で取り上げられたことから始まる事が多い、地域との交流窓口として活用している。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8,9)</p> <p>家族会を設置(年2回開催予定)しており、家族が意見を表しやすい関係作りに取り組んでいる。意見や要望があった場合には、管理者・職員にて話し合いを行い真摯に対応するようにしている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>町内会に加入しており、ふれあい昼食会や敬老会との交流、小学校の芋ほり参加などに参加している。ホームとしても町内の総会場所として施設を提供しており、1年に1回、地域の方々の訪れるようになってきている。今後は、地域に向けての情報発信にも期待したい。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念	法人の経営理念として、～福祉・介護を通して地域の皆様の幸せづくりを目指します～としている。ホームのモットーとして「いつもほのぼの ころはらくらく 今日笑顔でくらしたい」を掲げている。モットーにはユニット名が入っており、管理者の思いが込められている。		運営体制やサービス提供の仕組みが、理念に基づく入居者本位の支援につながっている事が重要であり、地域密着型サービスとしての果たすべき役割を明確にするためにも、ホーム独自の理念の作成、また理念の実践に向けた、体制の整備にも期待したい。
		地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている			
2	2	理念の共有と日々の取り組み	ホームのモットーや、高齢者の尊厳などに注意を払いながら日々のケアに努めている。管理者と職員が一緒になり、今後の方向性を示す理念を考え作り上げていくことで、立ち返る場所としての理念を共有し、実践に向けての取り組みを始めて欲しい。		
		管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる			
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい	町内会に加入しており、ふれあい昼食会や敬老会との交流、小学校の芋ほり参加などに参加している。ホームとしても町内の総会場所として施設を提供しており、1年に1回、地域の方々が訪れるようになってきている。今後は、地域に向けての情報発信にも期待したい。		
		事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている			
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用	今回の自己評価は、管理者により作成されている。職員の外部評価を実施する意義の理解には至っておらず、継続しての課題となる。前回評価での指摘事項には、研修体制の充実やアセスメントの充実に向けて、取り組み始めている。		自己評価作成に職員全員で取り組むことにより、日々のケアの振り返りや確認、気づきや見直しの機会として活用し、サービスの質の向上に向けて取り組むことが求められる。
		運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる			
5	8	運営推進会議を活かした取り組み	運営推進会議は2ヶ月に1回、土曜日に行われている。日常生活の報告や行事予定・ボランティア活用・市民センターとの交流・外部評価等について意見交換を行っている。地域との交流は、会議で取り上げられたことから始まる事があり、地域との交流窓口として活用している。		
		運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている			

グループホーム 黒崎

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携	地域包括支援センターとの連携が主体となっている。困難事例等を相談し、助言を得ている。今年度より、市の派遣する介護相談員を受け入れている。		
		事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる			
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用	現在、権利擁護に関する制度を活用している方はいないが、法人内研修に参加し、理解を深めるよう取り組んでいる。日常生活自立支援事業や成年後見制度について、必要時に活用に向けての支援が行えるよう職員全員の理解を深め、また家族や地域への情報発信にも期待したい。		
		管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人には、それらを活用できるよう支援している。			
4. 理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告	毎月、写真付きの報告書を作成しており、日々の暮らしの様子や支援状況、ケアプランの内容や健康状態・医療情報など、詳細な内容の報告を行っている。金銭出納も同時に知らせており、1ヶ月の生活の様子が把握しやすい。		
		事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている			
9	15	運営に関する家族等意見の反映	家族会を設置(年2回開催予定)しており、家族が意見を表出しやすい関係作りに取り組んでいる。意見や要望があった場合には、管理者・職員にて話し合いを行い真摯に対応するようにしている。		
		家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている			
10	18	職員の異動等による影響への配慮	ユニット間での異動が行われることがあるが、他事業所への異動は殆ど行われていない。資格取得での昇給や正社員雇用など、働きやすい職場環境づくりに取り組んでおり、安定に向かっていく。やむを得ず離職や異動が発生した場合には、管理者をはじめ全職員でフォローができるように配慮している。		
		運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている			
5. 人材の育成と支援					
11	19	人権の尊重	職員の採用にあたっては、年齢や性別による排除は行わないようにしている。現在、20代前半から60代後半までの職員が勤務しており、管理者はそれぞれに応じた役割分担や得意分野を活かせるよう配慮している。人事考課制度を採用する等、個々の職員のモチベーションの確保に向けて、取り組みを行っている。		
		法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きと勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している。			

グループホーム 黒崎

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
12	20	人権教育・啓発活動	21年度は法人としての内部研修として、高齢者虐待防止や権利擁護等の内容が組み込まれている。		人権教育は継続して取り組む課題として捉えており、身体拘束や高齢者虐待についての意識・理解を高めていく必要がある。
		法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。			
13	21	職員を育てる取り組み	法人として年間研修計画が作成され、毎月内部研修が実施されている。職員の外部研修への積極的な参加にも期待したい。		前回評価以降、内部研修の充実に向けての取り組みが行われており、計画的な研修が実施されている。今後は、職員の外部研修参加も積極的に促しながら、法人としてのサポート体制についても確立させて欲しい。
		運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている			
14	22	同業者との交流を通じた向上	管理者の個人的交流が主体となるが、近隣のグループホームとの交流があり、相談や意見交換、相互訪問できる関係にある。今後は職員も含めた交流の機会を持ち、サービスの向上へとつなげて欲しい。		
		運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている			
2. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
2. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用	申し込みがあった場合は、自宅や病院へ訪問するようにしている。顔なじみとなることを大切に、不安なく入居できるように取り組んでいる。入居までの時間に余裕のある方はデイサービスを利用しながらホームに慣れてもらったり、自宅とホームを行き来しながら過ごすこともできる。無理のない入居となるよう柔軟に対応している。		
		本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係	居室にてお茶を入れられるよう茶器や電気ポットを用意している方もおり、職員をもてなしてくれている。年長者である入居者の方々から、生活の知恵等、学ぶ場面も多々ある。		
		職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている			

グループホーム 黒崎

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	思いや意向の把握	少しずつ重度化が進む中で、少しずつコミュニケーションも困難になってきており、表情や行動等からその思いを理解するよう努めている。		センター方式活用への取り組みも確認できるが、日々のケアへ反映されるよう取り組んで欲しい。家族や関係者の協力も得ながら、一人ひとりの生活暦や趣味等を把握し、職員間で共有できるようアセスメント様式の工夫・充実や、本人本位の検討を行い、個別支援への充実へとつなげていけるよう取り組んで欲しい。
		一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している			
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	チームでつくる利用者本位の介護計画	本人・家族の意向を踏まえ、職員・医療関係者等の意見を参考にしながら、介護計画を作成している。毎月の家族への便りにも介護計画を記載しており、理解・共有できるように努めている。		
		本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している			
19	39	現状に即した介護計画の見直し	入居時には暫定プランを作成し、1ヶ月後に見直しを行っている。定期的見直し、及び状況の変化に応じた見直しを行っている。		
		介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している			
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援	階下のデイサービスを活用し、少しずつなじみの関係を築きながらサービスを開始する等、柔軟な対応を行っている。入院時には医療関係者との連携を図り、また入居者との関係性の継続にも配慮しながら、早期退院への働きかけを行っている。		
		本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている			
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	かかりつけ医の受診支援	月に1回、協力医の往診がある。入居前からのかかりつけ医への受診を希望する方もおり、自由に選択している。家族の状況に応じて、受診支援を行っている。		日々の健康管理や緊急時の対応等について、医療連携体制の再構築が求められる。また、介護職員・訪問看護師の役割を明確にしていくことが求められる。
		本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している			

グループホーム 黒崎

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有	入居時に「重度化対応・終末期ケア対応指針」を示し、同意を得ている。昨年、看取りを経験したことにより、認知症介護に対する職員の気持ちも、より深いものになっていることを管理者は感じている。状況の変化に応じて、家族やかかりつけ医との話し合いを重ねながら、方針を共有している。		
		重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している			
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底	日々のケアの中で、一人ひとりの尊厳を損ねない対応や声かけとなるよう、管理者により指導が行われている。ミーティング等において勉強会を実施し、具体的な事例をもとに話し合いを行う等、プライバシー確保への意識を高めていくことが求められる。		
		一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない			
24	54	日々のその人らしい暮らし	食事の時間や入浴日等、ある程度スケジュールを決めていることもあるが、できる限り一人ひとりの生活習慣や生活リズムを大切に支援に努めている。		
		職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している			
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援	朝・夕食はホームにて調理を行っており、毎週金曜日の「刺身の日」には、晩酌を嗜む方もいる。コロッケ作りや、おやつのおはぎなど、テーブルでできる作業を共に行ったり、後片付けに参加してもらっている。		
		食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている			
26	59	入浴を楽しむことができる支援	週3回の基本的な入浴日の設定はあるが、状況や体調にあわせて柔軟に対応するよう努めている。		
		曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している			

グループホーム 黒崎

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	音楽鑑賞やテレビドラマ視聴が好きな方には、十分に楽しんでもらっている。		今後のアセスメントの充実をもとにして、個別の役割や楽しみごとを見つけたり、力を発揮できる場面作りを支援し、心身の活性化への支援へとつなげて欲しい。
		張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている			
28	63	日常的な外出支援	季候にあわせて外出するようにしているが、新型インフルエンザの影響もあり、屋内で過ごすことが多い。		周囲には緑豊かな遊歩道があり、法人として広い敷地を有する等、戸外に出やすい環境にある。一人ひとりの希望の把握に努めながら、個々の状況にあわせた移動の配慮を行い、心身の活性化や気分転換の機会として、日常的に外出できる体制を整えていくことを期待したい。
		事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している			
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践	デイサービスとの共有玄関と、グループホームの玄関の2箇所の出入り口があり、1階のデイサービス職員との連携も図りながら、日中は自由に出入りできるようにしている。入り口の暖簾に鈴を付ける等の工夫も行っている。		
		運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる			
30	73	災害対策	1年に2回の避難訓練を実施しており、避難場所を近隣の小学校としている。昨年は近隣で水害があり、災害対策の重要性を再確認する機会となっている。スプリンクラーは設置済みである。		様々な災害を想定した具体的な対策が必要となり、消防署や地域住民との連携体制の整備に向けて、継続して取り組んでいくことが求められる。
		火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている			
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援	昼・夕食は、栄養士による栄養バランス等に配慮された献立が作成されている。また一人ひとりの状態に応じて、食事形態等に柔軟な対応を行っている。		
		食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている			

グループホーム 黒崎

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり	十分な広さを持つ共用空間は、ゆったりとしたソファやテレビが置かれたリビングを中心として、ベランダに面した明るい食堂、キッチンや各居室が周囲を囲んでいる。全てを見渡せるような直線的な造りではなく、プライバシーにも配慮された設計となっている。		
		共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている			
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮	各居室には箆笥や椅子等、使い慣れた家具が持ち込まれている。お茶を入れて、家族や職員をもてなすことができるよう、テーブルや椅子、茶器や電気ポットが持ち込まれている居室もあり、個性豊かな、その人らしい部屋作りが行われている。		
		居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている			